Return～再生する世界～

アケザキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｒｅｔｕｒｎ～再生する世界～

【Ｎコード】
Ｎ６２５８Ｒ

【作者名】
アケザキ

【あらすじ】

白蘭を倒し、元の世界に帰って来たツナ達。
それぞれが平和に過ごしていたある日の事、並森町に四人（＋？匹）の旅人達がやって来た！
その同時刻。相変わらず意見がまとまらない中、世界会議を終える？国？達。

だがある時を境に、事態は急変。運命の歯車は廻っていく……。

Prologue（前書き）

…運命は、廻りはじめる。

Prologue

ほーたるほ・た・る
そーらを舞ーう♪

ほーたるほ・た・る
やーみを舞ーう♪

ほーたるほ・た・る
なーぜ舞うー？

ほーたるほ・た・る
闇夜にはー

混沌に住む魑魅魍魎
出できて人をさらーってくー

魑魅魍魎から守るためー

灯りをまとって空を舞いー

闇夜を照らす？道？とーーなーるー♪

～～～～～～～～～～～

黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、
黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、
黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、黒、
黒、黒、黒、黒、黒、黒……

暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、
暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、
暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、暗、
暗、暗、暗、暗、暗、暗……

闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、
闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、
闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、闇、
闇、闇、闇、闇、闇、闇……

そこは、真っ暗闇が広がる世界。

辺り一面に広がる黒、暗、闇。

それしかないただの？空間？。

「ほーたるっ♪ほーたるっ♪」

そんな空間の中を、少女は一人、佇みながら歌っていた。

「ほーたるほ・た・る
そーらを舞ーう♪
ほーたるほ・た・る
やーみを舞ーう♪」

……真っ暗闇な空間で、楽しげに歌う少女。

だが、少女の口から紡がれる歌は、どこか寂しさを感じさせるものがあった。

「ほーたるほ・た・る
なーぜ舞うー？♪
ほーたるほ・た・る……」

不意に、歌声を止める少女。

その目は、涙があふれそうになっていた。

「……？ほたる？はどこへ行けばいいの……？」

そして、少女は静かに涙を一つ零した。

涙はほんのりと赤い頬を伝い、粒となって暗闇に落ちていく。

そして、ぽたっと涙が暗闇の底にたどり着くと……

……少女は、その空間から消えていた。

そして、ここからはじまった。

……一つの物語。

Ｐｒｏｌｏｇｕｅ（後書き）

どうも、皆さんこんにちは！！

アケザキです。

さて、この新連載『Ｒｅｔｕｒｎ～再生する世界～』のプロローグはいかがだったでしょうか？

まだまだ荒い文面ですが、長くお付き合いしていただける様、頑張っていく所存でございます。

では、また第一話でお会い致しましょう。

TARGET1『ある世界の地下室で』

ある世界のとある場所。蝋燭の明かりが蒼く灯る薄暗い地下室で、フードを被った人物が一人、分厚い本を開きながらぶつぶつとなにかを唱えている。

「紅の業火よー♪地獄のー業火よー♪今一度炎をー上げー♪我が前にーあらーわれよ♪」

……訂正、子供が聞いたら泣き出しかねない歌を唱えるように歌っている。

その人物の目の前には、色々な図形が描かれた大きな？魔法陣？らしきものが地面に施されており、中央には薪が焼べてある。

薪にはパチパチと踊るように燃え続ける炎が揺らめいていた。

「もうすぐ……もうすぐで『ゲート』が完成するぞ…！！これでアイツ等にギャフンと言わせてやるんだからな……！！」

フードを被った人物がそうつぶやくと、呪文詠唱を再開させる。

……我が王の魂の下（もと）……

汝を甦らせんとす……

今一度我が前に現れ……

……愚かなる者どもを薙ぎ払え……！！

ブアッ！！という音と共に薪の炎が巨大化し、ゴウゴウと燃え盛る。

そしてそれに呼応するかのように、描かれた？魔法陣？が青白い光を放ちはじめた。

「（よし！あともうすぐで……！！）」

呪文を唱え終え、フードを被った人物がニヤリと笑みを浮かべたときだった。

「おーい！ちょっと車のキー貸してくれないかい？君が手に入れた新型車に乗ってみたいんだけど…」

バタン！！と地下室のドアが開き、眼鏡を掛けた青年がひょっこりと顔をだしながら、目の前にいるフードを被った人物に声をかける。

「なっ…バカ！！勝手にドア開けんな！！」

フードを被った人物が叫んだ時はすでに遅かった。

ビュワァアアアアッ！！！！！！！！！！！

物凄い突風が地下室を駆け抜け、荒らしはじめる。

蝋燭の明かりが一気に消え、炎がついていた薪があちこちに散乱していった。

「「うわぁあああああっ！！！！！！」」

二人は突風に煽られ、くいしばるように脚に力を入れないと今にも吹っ飛ばされそうになっていた。

そして……

ビキビキッ…バリィイイイィイイッ！！！！！！！！！！！

けたたましい音が地下室に轟き、？魔法陣？が崩壊していき……

ドォオオオオォオン！！！！！！！！！！！！

……鈍い音と共に消滅した。

「なにしてくれてんだバカァ！！テメェのせいで張っていた『結界』が破れて全部パーになっちまったじゃねーか！！！それに、部屋のドアを開けるときぐらいノックしろってあれほど言っておいただろ！！」

嵐が収まり、静寂が訪れた地下室に怒鳴り声が響く。

「Ｗｈｙ！？俺は君から車のキー借りに来ただけなのに、どーしてこんな言われなきゃいけないんだよ！！君こそ変な格好して、ここで変な儀式していたのがいけないだろ！！それにちゃんとノックしたからドア開けたんだよ！！」

「うるせぇ！！聞こえなかったんだよバカァ！！」

さっきの出来事が発端となり、フードを被った人物と青年が口論になっていた。

「そもそも何でお前俺ん家にいるんだよ！！確か『会議』は明日だったはずだろ！！つーか勝手に家に入って来るんじゃねぇ！！連絡くらい入れろ！！」

フードを被った人物が大声で青年に怒鳴る。

「だって思ってたよりもこっちに早く着いたしー、君がカッコイイ新型車買ったって聞いてたしー、あと、電話と家に上がったときは君の部下が応対してくれたしー」

「……」

フードを被った人物は、青年の言った言葉になにも言えなくなる。

「ともかく！！車のキー貸してくれよ！！」

そう言いながら、フードを被った人物に手を突き出す青年。

「……チッ！！ほらよ」

フードを被った人物は、自分の車の鍵を青年に渡す。

「ドゥルッフー！！ｔｈａｎｋ　ｙｏｕ！！」

青年は車の鍵をしっかり握りしめながら、地下室から出て行った。

「……全くアイツめ…昔はホント可愛かったのにな……ったく」

ぶつぶつと独り言を言いながら、散らかった部屋を片付けはじめるフードを被った人物。

「……しかし、さっきの衝撃で『次元の通り道』に影響を与えてなければいいんだがな……」

薪の残骸をいくつか拾い上げ、フードを外す人物。

「……面倒な事になってないように祈るか……」

フードを被っていた人物……金髪にエメラルドグリーンの眼を持った男、『イギリス』はそうつぶやいた。

ＴＡＲＧＥＴ１『ある世界の地下室で』（後書き）

お久しぶりです。

プロローグを投稿してから、約四ヶ月ぶりの投稿となってしまいました……。

（三月に予約投稿をし、掲載しはじめたのが五月辺りなので……）

楽しみにしていた方々に大分お待たせしてしまい、本当に申し訳ありませんでした。

さて、話は変わってしまいますが、今回のこの小説で、私は話数表示を『ＴＡＲＧＥＴ』としました。

理由はですね……ベースとなる舞台が『ＲＥＢＯＲＮ！』で、そこに『ツバサ』のメンバー（一部『ｘｘｘＨＯＬｉＣ』メンバー）が介入してくるのと、後に『ヘタリア』が合流してくる感じになるので、なにか統一感を持たせたいなーと考えた結果、この表示になりました。

ちなみに、今回は『ヘタリア』の方から、？イギリス？と？眼鏡の青年？を出しました。

始めは『ＲＥＢＯＲＮ！』の方からにしようかなとも思ったのですが、上手くまとまりませんでした……。

次回は『ツバサ』がメインで、『ＲＥＢＯＲＮ！』の世界へ到着します！

頑張って執筆します！！

最後に、この小説をお気に入り登録してくれた方に、深く御礼申し上げます。

ありがとうございました！

TARGET2『次元の狭間で』

とある世界のある場所。

「モコナ＝モドキもどっきどき♪アァーーーフゥーーーー！！」

『サクラ姫の羽根』を探す小狼達一行は、次の世界へ行くために、次元移動をしようとしていた。

『ピッフル国（ワールド）』から出た後、この国を含めて六つの世界をまわったが、『姫の羽根』はどの世界にも無かったのだ。

だが、彼らは知らない……

この後に起こる予想外の出来事を……

∞　∞　∞

次元と次元を繋ぐ空間に入った時、異常が起こった。

「……！」

モコナは、何か異変を感じた。

「……モコナ？」

「……どうしたの、モコちゃん？」

モコナの様子がおかしい事に小狼とサクラは気づき、声をかける。

「ここ……いつもと違う……なんか変なの……」

モコナは不安そうに答えた。

「……そういえば、わずかだけどザラザラーっとした感覚がするね」

ファイは辺りを見渡す。

「……ファイさん、それは魔法や何かの術関係ですか？」

小狼はファイに尋ねる。

「んー……可能性は高いかな。なんらかの魔力は感じるし」

目をつむり、魔力を感じ取るファイ。

「！？」

突然後ろを振り返る黒鋼。

「黒鋼さんも何か感じたんですか？」

小狼が心配そうに尋ねる。

「今……遠くからミシミシと音が聞こえた」

その時だった。

「！？……みんな気をつけて！！何かが来るっ！！」

ビュオオォォオオオオォオオオオオオッ！！！！！！！！！！！！

物凄い衝撃波が空間を支配する。

「「「「うわぁあああぁあああっ！！！！！」」」」

一行はその威力になすすべもなく、ある？世界？の方向へと飛ばされていった……。

∞　∞　∞

小狼は、真っ暗な闇が支配する空間の中にいた。

「黒鋼さん！！ファイさん！！モコナ！！サクラ！！」

……みんなに呼びかけても、声だけが虚しく響く。

「……！」

その時、一筋の光が差し込んだ。

一つまた一つと光が差し込み、闇を晴らしていく。

「……！！」

あまりの眩しさに、小狼は目が眩みそうになる。

そして、闇が完全に消えた時……

一点も曇りの無い、蒼く澄み渡った大空が広がっていた。

「あ……」

そして、その光景を見た途端、小狼の意識は薄れていった……

∞　∞　∞

「！！」

急に覚醒し、ガバッと起き上がった小狼。

「あれ……ここは……？」

目の前に広がるものは、前に訪れた『阪神共和国』によく似た景色。

「よ……よかった！気がついたんですね！！」

小狼は声が聞こえた方向――――右を向く。

……そこに居たのは、小狼がさっき見た大空と同じ位澄んだ目をした少年だった。

ＴＡＲＧＥＴ２『次元の狭間で』（後書き）

こんにちは！アケザキです。

すみません、ちょっとした私用の関係で投稿が遅れてしまいました……。

（そのため、先に『虹ヶ丘』の方を投稿させていただきました。）

さて今回の話で小狼達一行は、どこからか放たれた衝撃波により、ある世界（と言っても前回の後書きでわかっちゃいますよね……）へ飛ばされてしまいました。

次回はその世界の視点から、『ツバサ』のメンバーと遭遇場面を投稿いたします。

そしてある事情により、ＴＡＲＧＥＴ１の『イギリス』が唱えた呪文の方を改訂させていただきましたので、ここで報告させていただきます（自作なので自信が無いのですが、かなり禍々しいものになったと思います）。

最後に、感想をいただきました寿々様と、お気に入り登録をされた方に御礼申し上げます。ありがとうございました！

これからも頑張っていきます！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6258r/

Return～再生する世界～

2011年10月8日04時39分発行